

第20回東日本支部会の報告

支部長 玉元弘次（1期生）

平成22年6月27日（日）に琉大医科学東日本支部同窓会が「ミヤリサン」にて開催されました。

今年は本部から同窓会会長の増田昌人先生がお見えになり、「医学科同窓会会員の現状と動向」の講演をいただきました。今年も例年の如く医師国家試験合格率や卒業後の進路などについて報告があり、問題点など議論を行いました。「医療崩壊」が最近マスコミで取り上げられております。医学部の定員増も現実のものとなってきております。沖縄県は人口10万対医師数はほぼ全国平均ですが東京を除く東日本では平均以下となっております。

特に埼玉、茨城、千葉はかなりの医師不足となっております。このことは卒後の進路にも影響することと思われま

す。そのような点からも我が琉大医学科に於いても合格率が高い水準に到達するよう現場の先生方や

医学科学生への奮起を期待しております。

昨年までの山中秀峰先生（4期生）に代わり、私が支部長に拝命されました。山中先生と岡本るみ子先生（3期生）に手伝ってもらいながら会の運営を行いたいと思っております。よろしくお願いいたします。



第1回長崎支部会の報告

副支部長 山城哲（2期生）

御主よう（ぐすうよう）、今日（ちゅう）拝（うが）なびら。本年8月21日に長崎市内の料亭で第1回の琉球大学医学部医学科長崎支部会の為の食事会を開催した。1期卒の土屋姉から司会をやるように云われ、その第一声に冒頭の言葉を使った。1期生から22期卒の湯浅君まで15名が集まった。私の知る限り、長崎県内には50名の琉大医学科ゆかりの方々がいる。元教官8名、卒業生42名である。今回参加いただいた斎藤先生、中富先生、栗原先生には久方ぶりにお目にかかったが、ご挨拶した瞬間、さあ一つと学生時代にタイムスリップした。先生には「いかんですよ」とお説教され、先輩には甘え、後輩には偉そうに口をきいた（ごめんなさい）。母校の懐に抱かれた感じで自分の拠って立つ処を確認した気がした。最後は芭蕉布を全員で歌った。これは土屋姉の御所望で、最初はえ?と思ったけどやる事になりました。所がこれ、良

かったです。キャンプファイヤのようになりました。長崎支部の会員の中に誰かさんしん弾ける人居ませんか?来年はぜひ持ってきて下さい。しんみりとしたやつお願いします。会場側には予め許可をとります。不思議な事に、こういう席って昔の楽しい事しか思い出さないのでですね。嘘だとおもったら来年は参加してみてください。お待ちしております。

